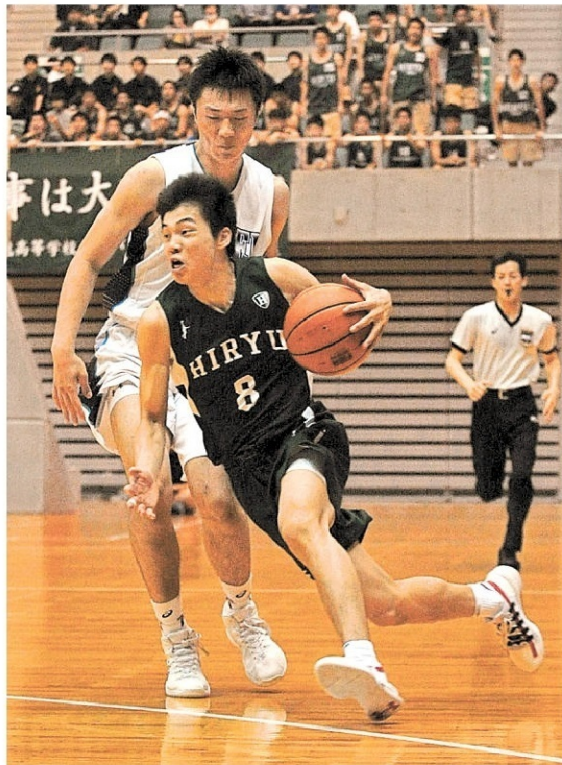


バスケットボール男子の飛龍は、東海新人王者の藤枝明誠に雪辱し、3年連続11回目の優勝を果たした。2勝同士でぶつかった決勝リーグ最終戦に競り勝ち、選手は抱き合って喜びを爆発させた。

65―65で迎えた第4クォーター残り2分。互いに一步も譲らない接戦だったが、保坂が流れを引き寄せた。相手のミスに乗じてボールを奪い、一人でゴール下に切り込んだ。「持ち味のドライブで積極的に攻めた」。反則を受けながらシュートを決め、逆転した。

飛龍 最終盤 意地の逆転



男子決勝リーグ 藤枝明誠―飛龍 第2クォーター、ドリブルでゴール下に攻め込む飛龍の保坂=エコパアリーナ

その後はリユウのダメ押しとなる連続得点で勝負を決定付けた。リユウは守りでも内角で強さを見せつけ、高さのある相手の留学生2人を計12点に抑え込んだ。

1月の県新人大会決勝リーグではライバルに第2クォーター途中まで0―25。結果的に32点差の大敗を喫し、屈辱的な思いをした。チームは「打倒・藤枝明誠」を掲げ、

体力面や守備を鍛え直し、はい上がってきた。原田監督は「選手が初めて格好良く見えた」と教え子の成長ぶりに感激した様子だった。

(青木功太)